



国民春闘共闘

2022年度 第39号
2022年9月30日

国民春闘共闘委員会
〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

異常な低賃金・物価高騰から生活をまもる

もう黙ってられない賃金上げろ！

全国アクションスタート集会

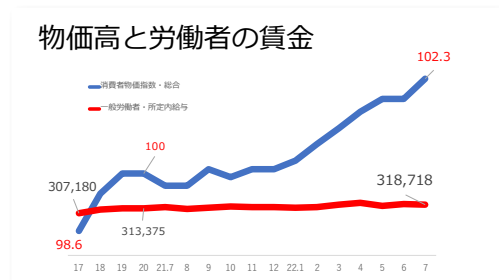


国民春闘共闘・全労連は9月29日、「もう黙ってられない賃金上げろ！全国アクションスタート集会」をオンラインで開催し200名が参加。異常な低賃金と賃金格差、歴史的な物価高騰から生活をまもるために、23春闘にむけて年末一時金・公務員賃金・ケア労働者の賃金の大幅引き上げ、全国一律最低賃金1500円の実現など、職場と地域でのたたかいと社会的な賃金闘争にとりくむ決意を固めました。

大幅賃上げ待ったなし！仲間を増やしながら賃金大幅引き上げの大波をつくろう

開会あいさつ・秋の運動提起を行った黒澤幸一事務局長は、四半世紀にわたり日本の労働者の実質賃金が下がり続ける中、円安や燃料高騰で物価だけが上がり、大幅な賃金引き上げは待ったなしの課題だと強調しました。

22春闘で国民春闘共闘に結集する仲間は、平均で2%を超える賃上げを実現し、政府のケア労働者への処遇改善事業も多くの組合で活用させ平均8,000円超を勝ち取っていることを報告。「この秋、賃金上げてVOICEシートや23春闘での賃金大幅引き上げを求める臨時要求書、もう黙ってられない賃金上げろ！地域集会の開催などを旺盛に展開して、仲間を増やしながら賃金大幅引き上げの大波をつくろう」と呼びかけました。



全員のベースアップを勝ち取る～コープえひめ労働組合 大黒 直美さん

地方での生活には車が必須だが、現在レギュラーガソリンは170円前後と、2年前と比べて月に5000円ほど負担増となっています。さらに10月以降も日用品をはじめと多くのものの値上がりが予測される中、賃金は上がりず様々な支払いが生活を圧迫しています。

今年の最低賃金審議会では、CDランクの地方ではランク間格差への怒りと「賃上げは必要」とこれまでにない意見も多くなされ、愛媛では答申を上回る 32 円の引き上げに繋がりました。それを受けて、コープえひめでもベースアップ要求を出しました。昨年までは最賃に引っかかったところだけ上げるという回答でしたが、今年は全員が 20 円～50 円のベースアップを勝ち取ることができました。

23 春闘ではストライキ権を確立して、みんなで団結して大幅賃上げ実現にむけて頑張ります。

エッセンシャルワーカー大幅賃上げ・増員プロジェクトを展開～愛労連 若井 和則さん

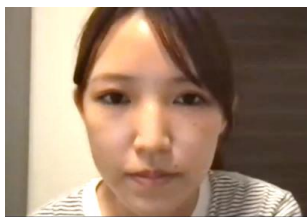
愛労連では、エッセンシャルワーカーの大幅賃上げ・増員プロジェクトを関係 5 単産で結成し、22 春闘での賃金闘争をけん引する行動展開を進めてきました。2680 名以上を集約したアンケートなどでの深刻な現場の声と実態を基に行動の具体化を進めました。

自治体や政府への緊急要請と記者会見、県選出の自民党国会議員への緊急要請も行い 12 名と直接対面して実態を伝え、自民党愛知県議団との懇談・要請も実施。「賃上げと増員でいいケアしたい」を合言葉に、スタンディング宣伝やツイッターデモも展開しました。

プロジェクトを進める中で、介護現場で働くすべての労働者に一律ベア 6000 円、地域での連帯に確信を深め、職場での対話と労働組合への加入も広がるなどの成果も実現しています。

一方で、自治体や事業所が処遇改善事業を申請・活用せずに賃上げされず、悔しい思いをしているケア労働者もたくさんいます。愛労連では 11 月 17 日に実施する地域総行動で、ケア労働者の賃上げを求め、各地域労連から自治体へ一斉要請行動を展開していきます。

みんなで繰り返しの要求討議～福祉保育労東京・なかよし保育園分会 大島 七海さん



職員のコロナ感染による穴を埋める為、夏休みを返上して勤務し、9 月現在も夏休みをとっている職員もいます。自分の生活を我慢して仕事を優先することは開園し続けるために仕方ないことでしたが、コロナ感染の影響がどこまでも広がっていることに残念な気持ちでした。

22 春闘では、ベースアップについて何度も組合会議で議論しました。私たちの労働と給料が見合わないこと、光熱費値上げなど物価上昇があること、国の処遇改善費 9000 円が職員全員に等しくいきわたるはずもないことなど。それを基に 1 万円のベースアップを要求しました。

国の補助金支給の約束が 9 月までの為、年度内は 3000 円ベースアップで合意となりました。子育て世帯の多い組合員からは、「様々なものが値上げされ生活が苦しい」「もっと給料が上がると助かる」「心に余裕を持って仕事ができることにも繋がってくる」という声が多くあります。来年の春闘でも組合員の要求実現のために力をあわせ、声を上げて頑張っていきたいです。

コロナの最前線で働いているのに「なぜ対象外！」～自治労連保育部会 武藤 貴子さん

公立保育所で保育士をしています。昨年 12 月、岸田首相が「ケア労働者に賃上げをする」と言った時、まわりの保育士たちは「給料上がるかな」「上がったらうれしいね」と期待しました。でも、全国の公立保育所の中で賃上げを実施したのはわずか 27.2%で、多くは会計年度任用職員のみでした。

政府が、経済を回すため感染者がでても保育所を休園しない方針にしたので、保育所は保育士が足りなくても原則休園しません。保育士たちは、お母さんお父さんの労働を保障したいという思いで、リスクを承知で保育を続けています。まさにコロナの最前線、なぜ対象外なのか納得いきません。

10 月からは公立保育所の職員の賃上げ分も地方交付税の算定基礎に入るので、総務省や内閣府、地方自治体への要請を続けています。

本気でとりくむ23春闘へ！～JMITU 埼玉・日信工業支部 泉田 隆徳さん

「今月の電気代が昨年同月より1万円も上がっている」「昼飯にコンビニでカップヌードルを買いに行ったら40円も上がって200円になっていた」「ガソリン代が高く満タンにできない」こんな声が職場からよく聞かれています。

しかし、賃金は一向に上がらず、私の支部でも2～3千円台が10年以上続いています。20年前の57歳の賃金がおよそ総額44万円に対し、今の57歳は総額37万円と7万円も下がっており社会保険料は20年前より上がっているのもそれ以上の差が開いています。

JMITUは23春闘方針の議論を始めました。「こんなに物価が上がっているのに労働組合が先頭にたって賃上げ闘争をしないと労働組合の存在自体が問われる」と意見がだされました。本気で賃上げを勝ち取る春闘にしないといけません。アンケートや家計簿調査、社長への一言メッセージにとりくみ、職場討議でみんなの要求を集め、要求大会では必ずスト権を確立する。そしてストライキを軸にみんなで統一闘争に結集し、納得いく回答が示めされるまで春闘を終わらせないという決意で23春闘を闘っていきます。

地域の仲間と連帯！ストライキ構え要求前進～岩手医科大学教職員組合 柴田 勇樹さん



岩手医大の給与は県の給与条例を準拠しており、昨年は「月例給は据え置き、ボーナスは年0.15月の引き下げ」という勧告で、36協定改廃届とストライキ通告を行いました。

計7回の役員研修会や、地域労連や岩手医労連の協力も得ながら交渉課題や交渉状況を知らせる組合新聞1000枚を早朝玄関前で配布、最寄りの駅前では地域労連と宣伝行動も実施して意思統一や士気を高めていきました。また、理事長宛てに「ボーナスを引き下げないように求める要請署名」を展開して約2週間で1850筆を集めました。

その結果、「12月ボーナスについて県条例どおりとするが、特別措置として0.15月分を支給する」という内容の協定案が示され、締結しました。

コロナ禍の現場は増員がなく、時間外労働は当たり前、休憩時間は全て取れない、希望休が通らない、夏期休暇を切り上げて出勤している状況です。病欠や退職も後を絶ちません。組合へも人員不足を原因とする諸問題の相談が多数寄せられています。

先日、処遇改善事業に係る全職員の処遇改善についての要求書および申し入れをしました。交渉結果により11月10日の統一行動日に2つの病院でストライキを実施することを明記しました。ストライキを背景に要求実現に向け、組合の最大限の力で勝ち取りにいく決意です。

～参加者からの感想～

- 現場の実態が与党議員も動かす力を持っているのを実感します。
- 現場の実態を踏まえた要求討議の大切さを改めて学ぶことができました。
- みんなで議論、みんなで要求を決める、みんなで要求を勝ちとる。

- 多くの青年が賃上げを望んでいます。賃上げを望む声、一杯上げていきましょう！
- 地域労連に結集して運動することの大切さをあらためて感じました
- すべての労働者の大幅賃上げを勝ち取るために、すべての労働者を労働組合に迎えよう！